二人の中毒

柏餅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二人の中毒

【Ｎコード】

Ｎ２９１９Ｋ

【作者名】

柏餅

【あらすじ】

アレンは高校一年生、ラビは高校三年生の設定。超激甘な二人です。

（前書き）

アレンとラビの交互の視点で進んでいきます。
読みにくいかもしれませんが、何卒ご容赦を。
超激甘なのでご注意を。

彼は僕より2年上の先輩で、最初に会ったのは図書室。
初めてってことで、きょろきょろしていた僕が面白くて話しかけたとか。

「……そんな理由だったんですか」
「え、なんで怒ってるんさ、アレン」
「別に怒ってませんけど」

そのとき微笑みかけてくれた笑顔で、一目惚れしただなんて。
……くだらなさすぎて、口が裂けてもいえない。

馬鹿なアレン。
そんなことあるわけないのに。

たしかにきょろきょろしてたから気づいたってのもあるけど、そんなことは二の次。
オレが惹かれたのは、お前さ、アレン。

あのあと微笑み返してくれた君に、オレがどれだけ心奪われたか知ってる？

「なににやにやしてるんですか」
「え？！　そんな顔してたさ？　オレ」

「はい、すごく」
「……あちゃ～」

学校ではブックマンなんて仰々しいあだ名を付けられているオレも、君の前じゃ剥がれてしまう。
本当に、君の前のオレはなんなんさね？

そういえば。
あなたが僕を好きになった理由はなんなんだろう？
僕はただの一目惚れで、でもそのあとも思いだけは増していって……こんなこと、絶対言ってやらないけど。

「そういえばさ、アレンってオレのどこが好きなんさ？」
「え？！」
「……驚きすぎさぁ、アレン。なんかちょっと凹むんさけど……」
「そ、そういうラビだって、僕のどこが好きなんですかっ？」

声が裏返る。
どっくん、ばっくん。心臓がうるさい。
流れに任せて言ったけど、内心緊張しまくってるなんてあなたにはわからないでしょうけど。
でも、そんなあなたの言葉に期待している自分がいたりして。

「え？　オレさ？　そうさねぇ……」

焦らすように言うあなたが、なんとも待ち遠しい。
その間にも、心の高鳴りは増していくばかりで。

「全部。アレンの全部が好きさ」

ありきたりな言葉。
それでも僕の心が張り裂けそうになったこと、あなたは知ってますか？

「……馬鹿じゃないですか」

それでもこんな憎まれ口しか言えない僕を、どうか許してください。

ありきたりな言葉だってわかってる。
だけどこれが一番的を得ていたりして。

「……馬鹿じゃないですか」

憎まれ口を叩く君。
オレから顔を背けた君の髪の隙間から、耳が薄っすら赤いことを見つける。

そんな君を愛しいと思うオレは、やっぱり馬鹿なんさね？

「アレンはどうなんさ」
「えっ？　な、なにがですか？」

「オレのどこが好きさ？」

いつもみたいに「なに言ってるんですか、馬鹿じゃないですか」って言われるのはわかってるけど、それでも聞いてしまうのは、やっぱり気になるから。

「わかんない……です」

ぼそりと呟いた予想と違う言葉に、少し傷ついているオレはなんだかガキみたいさ。

それにしてもわからないっていうのは……やっぱり凹むさねぇ。

「いや、だから、えっと……」

「えっと？」

ちらちらとオレの顔を盗み見ては、俯く君の顔はさっきよりも赤みが増していて。

「いまさらっていう気がして……」

「なんでさ？」

すかさず聞くオレに、君はうっと声を漏らしてからぼそりと呟いた。

「え、なんさ？」

残念ながら聞き取れなかったオレがもう一度聞き返せば、君は「あー！もうっ！」と、突然大声を出して。

「好きすぎてっ、いまさらどこが好きだなんてわかりませんっ！！」

なんて。
茹で蛸状態の君に、君のその言葉に、さっきまで凹んでた気持ちなんて吹っ飛んで。
気づけば、ぎゅっと抱きしめてた。

「あ、あのっ、ラビ？」
「あー、もう……」

オレの中にすっぽり納まる君が愛しい。
君の全てが愛しくて、愛しくて……ほんと、中毒っていうんさ？
こういうこと。

「可愛すぎだから」

アレン中毒。
これは一生、止められそうにない。

（後書き）

どうも、柏餅です。

無性にいちゃついているラビアレが書きたくなって、書いてしまいました。

反省はしていません↑

もちろん、このあとラビは美味しくアレンを頂きました。

気がむきさえすれば、そんな二人も書いてみようかな…。

では、またお会いできることを願って。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2919k/

二人の中毒

2010年10月16日04時42分発行